

技術系研修のご紹介

今月は、リハビリ課内で行っている新人技術系研修についてご紹介したいと思います。
リハビリ課では新入職員(今年度はPT 3名、ST 1名)を対象に年間を通して様々な研修を行っています。今月行われた新人職員技術系研修を取材しました！！

<タッチングについて～ROM-ex 編～>

PT 主任・副主任コンビによる触診技術の研修、第2回です。

前回はタッチングについて、とにかく患者さんを触ることに慣れる！をテーマに行われました。今回はROM-ex（関節可動域訓練）についてです。PTさんにとっては基本的な手技ですが、ROM-ex をより丁寧にやろう！自分のクセを知ろう！をテーマに、実技を中心に行われました。



ROM-ex をするとき大切にしていることは何ですか？
何に気を付けて実施していますか？
もう一度考えてみましょう・・・

触り方、持ち方、声の掛け方など考えればきりがありませんね！

ではこれらを意識しながら実践してみましょう！
触り方、持ち方、声の掛け方1つで患者様の反応が変わりました！



今回は自分で気付いていなかった普段からのクセも分かり、
「ROM-ex はただ動かせばいいわけじゃない！」
そんなROM-ex 難しさを改めて実感することができました。

<ポジショニングについて>

1. 関節拘縮に対するポジショニング
 2. 浮腫に対するポジショニング
 3. 誤嚥予防のためのポジショニング
- という3つのテーマについてでした。

「関節拘縮に対するポジショニング」

まずは講義形式で、なぜ関節拘縮や変形が生じるか？関節拘縮が生じたり、進行するのを予防するためには、何を考えてポジショニングすればよいのか？を学びました。普段自分はどんなことを考えているか？振り返る機会にもなりますね。



では実践してみましょう！
まずは悪い例として、患者さんが安楽な姿勢をとれないポジショニングをしてみます。患者さん役もなかなか大変です。



腰が痛い・・・
踵に圧が集中している・・・



圧が集中しているのはどこか？
評価して、今度は正しいポジショニングを考えます。クッション1つとっても、どれを選ぶか、どのように挟むか、悩む場面もありました。

腰と膝が楽！
全身がリラックス
できる～



「浮腫に対するポジショニング」

こちらは講義中心でした。まず浮腫が生じるメカニズムについておさらいし、実際にポジショニングを行う姿勢ごとに注意点を学びました。

「誤嚥予防のためのポジショニング」

患者さんが食事の際に誤嚥しにくい姿勢とはどのようなものか？を考えました。食事の時だけではなく、普段から誤嚥しにくい姿勢をとれるようポジショニングしていくことが大切！とのことでした。

片麻痺の患者さんって
どんな姿勢でしょう・・・？
この姿勢で食物を飲みこむと
どうなるのでしょうか？



それぞれ、目的に応じたポジショニングを行うことが大切ですが、全てに共通するのは『その患者さんの姿勢を評価し、その方に合ったポジショニングをすること』『患者さんが楽な姿勢にすること』でした。

私も、本当に患者様が安楽な姿勢を提供できているか？改めて見直す良い機会になりました！！

<緩和ケアとリハビリテーションについて>



今回は緩和ケアとはいったい何なのか？緩和ケアにおけるリハビリテーションの役割とは？をテーマに学びました。

当院には緩和ケア病棟があり、個別担当制で療法士が関わっています。又、一般病棟でも癌の患者様を受け入れており、リハビリテーションを行っています。

新人でなくても療法士にとって、余命が告知されている方や痛みがあったりする患者さんにどのように対応すればいいのか？自分達に出来る事はあるのか？と悩むことも多い領域です。OT 栗生副主任が緩和ケアの歴史、リハの役割、そして症例を通しての経験を講義されました！

緩和ケアでは時期に合わせた関わり方や他職種との協業、そして患者さんにとって希望をかなえる「場所」となったか、がんの「人」を見る事の大切さを共有できました。

緩和ケアの患者さんだからといって特別扱いせず、他の患者様と同様に接していくことが大事と話されていました。

4月に入職した療法士も、今は先輩療法士と同じように担当患者を受け持ち、日々患者さんを元気にしています！今回取材した研修会は、実務が出来るようになった秋頃に、各自の経験も振り返りつつ、技術向上を図れるようにと企画しているものです。

次回は、リハビリ通信の内容をお届けします。お楽しみに～